

**資料3：林業イノベーションハブ構築事業の概要と
テーマ3「デジタル」について**



林業イノベーションハブセンター（森ハブ）とは



- 『林業イノベーション現場実装推進プログラム』を着実に進めるため、「林業イノベーションハブセンター（森ハブ）」をR3に設置。
- R3から、林業イノベーションに係る課題・技術情報の整備、林業イノベーションに必要な支援機能の検討等を実施。
- R5は、林業イノベーションの創出を支援するために、「森ハブ・プラットフォーム」の構築・運営、地域へのコーディネーター派遣に着手。

森ハブ

R3～ 調査・方策検討機能

- 異分野を含む先進技術を調査し、林業課題を8分類35項目に、新技術を86項目に拡充
- 新技術の普及状況・課題等を整理、2025年までのタイムラインを策定
- 林業イノベーションに関する支援ニーズ調査等を踏まえ、必要な支援機能を検討

反映

専門委員会

- 調査結果等を基に意見・提案聴取

アドバイザーコミッティ

機械開発分科会 デジタル分科会 etc.

<令和5年度アドバイザーコミッティ委員>

泉清久（元和歌山県農林水産部森林・林業局長）
 坂井貴行（神戸大学バリュースクール教授）
 柴田君也（株式会社楽田産業代表取締役）
 立花敏（筑波大学生命環境系准教授）
 見山謙一郎（事業構想大学院大学特任教授）
 宮本義昭（株式会社バルステクノロジー代表取締役社長）

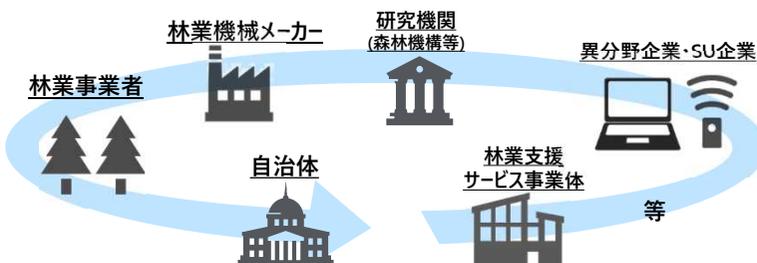
活用

- 「林業イノベーション現場実装推進プログラム」をアップデート(令和4年7月)
- 林業機械等の開発支援事業に活用 等

R5～ マッチング・プロジェクト支援機能

森ハブ・プラットフォーム

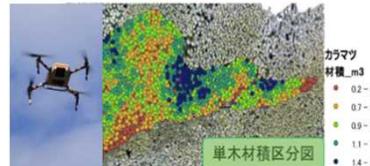
- 様々なプレイヤーが参画するプラットフォームを構築、異分野からも参画を呼び込み。事業者間の情報交換・交流等を促進



- 林業現場が抱える課題・技術ニーズ
異分野企業・SU企業等が有する強み・新技術 } の共有
- 事業者間のマッチング・協業体制の構築
- 新たな林業機械や林業支援サービス等の創出・拡大、現場へ普及・定着



自動走行フォワーダ（開発中）



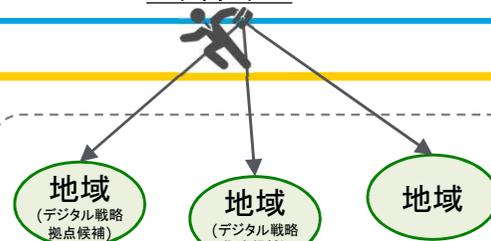
ドローンを活用した資源情報解析サービス

地域へのコーディネーター派遣



- 地域のニーズを踏まえて、コーディネーターを派遣、コーディネーターの活動を後方支援
- 地域の進展状況を把握・評価する「チェックリスト」を作成し、横展開を推進

コーディネーター



- 各地域の状況を踏まえ、林業のデジタル化やイノベーションの推進を支援

先行事例、チェックリストにより横展開



<地域コンソーシアムとは（デジタル林業戦略拠点構築推進事業）>

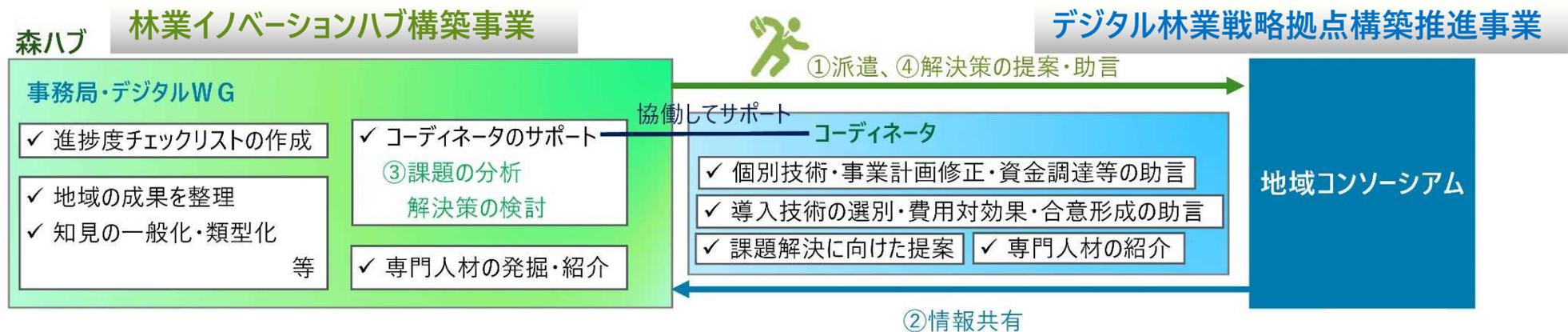
➤ デジタル林業戦略拠点構築推進事業の概要

- これまで一部の者や分断的な活用に留まっていたデジタル技術を、地域全体で森林資源調査から伐採・流通に至る林業活動にデジタル技術をフル活用する「デジタル林業」の実践・定着を進める取組を創出。
- **地域コンソーシアム**が、[森ハブと連携して「デジタル林業」を実践・定着する取組](#)に対して支援を行う。
- H30～R4まで実施されていたスマート林業構築普及展開事業の後継事業的な位置づけ。
3年間を上限（R5採択3地域は**R5～R7**）とした支援を予定。

➤ デジタル林業戦略拠点（地域コンソーシアム）に求められるもの

- 本事業では、その実証的な知見・ノウハウの蓄積や、拠点構築のプロセスやポイントを一般化・類型化して、全国へのデジタル林業の横展開を図っていくことが求められている。
⇒特にR5年度は事業初年度であることから、各地域コンソーシアムには[ロールモデルとしての役割](#)が期待
- 具体的には、資金調達計画や構成員の意識・行動の変容を含め、事業終了後の自走化した将来像（実証から現場実装に移行し、システム等運用コストを利益で賄える状態）が確立していることが望ましい。

<森ハブ：デジタル分科会と地域コンソーシアムの連携>



- 林業分野でのデジタル活用等について指導を行うコーディネーター等（コーディネーター及び専門人材）の活用を必須としており、コーディネーター等は森ハブと協働した1つのチームとして、地域コンソーシアムの取組をサポート（伴走支援）を行う。

➤ 森ハブ：デジタル分科会による伴走支援体制

（令和5年度林業イノベーションハブ構築事業 委託事業仕様書より、デジタル分科会実施内容を抜粋）

■ 以下①～③の内容について、各地域コンソーシアムに1回以上の必要な助言

- ① 各地域コンソーシアムの全体計画並びに令和5年度の事業内容及び目標の設定
- ② 進捗管理
- ③ 目標に対する効果の検証等

■ 採択地域の進捗の確認、デジタル技術の専門的知識の提供や業務の効率化に関する助言

■ 地域コンソーシアムが行う現地検討会等において視察等も行いながら、1回以上の助言

資料4：令和5年度デジタル分科会の目的

デジタル林業戦略拠点の推進に向けたデジタル分科会の役割

政策上の位置付け

林業イノベーション現場実装推進プログラム（R4年7月アップデート）

新しい技術実装の推進方策として、「デジタル林業戦略拠点」を新たに記載

政府戦略（新しい資本主義実行計画、デジタル田園都市国家構想基本方針など）

「森ハブからのコーディネータ派遣等により地域コンソーシアムの組成を促進するとともに、（中略）デジタル林業戦略拠点の創出を進める。」

拠点の取組の主な特徴

地域一体の取組

産・学・官・金の連携、川上・川中の連携、複数者のデータ連携

取組の自走化

技術の現場定着、導入効果の明確化、資金調達

サプライチェーン・マネジメント

ICTを活用した原木の生産・流通管理

▼ 3地域：取組計画等を作成

推進方針

3地域の優良事例化

「デジタル林業戦略拠点」事業実施地域への助言

全国への横展開

知見・ノウハウを蓄積、構築プロセスを一般化・類型化

▼ コーディネータ：3地域の進捗を確認
林野庁：全国の展開状況を把握

R5森ハブ サポート

地域の伴走支援

分科会委員・事務局の助言、コーディネータ派遣

チェックリストの整理

取組の進捗度の見える化に向けた確認事項の整理

R5森ハブデジタル分科会 取組予定

第1回（7月）	3地域の取組計画への助言、チェックリスト案への助言
第2回（10月）	現地視察（静岡）
第3回（12月）	3地域の1年目のまとめ、3地域の2年目取組方針への助言、チェックリストの確定

デジタル地域の自走化・現場定着に向け、デジタル戦略拠点地域の実証内容を把握した うえ、コーディネータとの連携・進捗管理を行い、実証成果を確認します

テーマ3：デジタル（伴走支援）



1. 各地域の目標設定

デジタル戦略拠点地域の実証内容の把握および助言方針の策定

- 予めWEB会議等で各地域の取組をヒア
 - 現状や将来像はもちろんのこと、[組織体制・人材育成や将来ビジョン](#)などの申請書ベースで表現しづらい項目を具体的に把握
- 指導/助言方針の整理
 - 各地域の視点や粒度を統一すべく、[実証内容の詳細、課題・目的・実証・効果検証方法などを共通の視点](#)でデジタル戦略拠点地域の発表資料の整理
 - 分科会委員からの助言を踏まえた、目標設定の明確化



2. コーディネータとの連携・進捗管理

地域コンソへの派遣・現地視察や事務局との連携

- 地域の希望を聞き、コーディネータ派遣日程調整
 - 派遣回数は[4回程度](#)を想定
 - 初回派遣前には、支援/指導方針等を決定すべくコーディネータと事務局間で事前打合せ
- コーディネータ派遣を通じた、進捗の確認および課題・ニーズ等の洗い出し
 - コーディネータの派遣後に、地域で派遣概要のレポートを作成。[助言内容・今後の課題・地域側のニーズ等について](#)、事務局とコーディネータが情報共有
 - レポートをもとに事務局と意見交換を行い、支援/指導方針のブラッシュアップ



3. 実証成果のとりまとめ・課題抽出

デジタル分科会やコーディネータの意見等を踏まえた実証活動成果確認

- 実証の進捗・成果を整理
 - 効率性、採算性等の効果について、可能な限り定量的に求め、目標値との比較を行う
 - 自走化・現場定着に向けて、チェックリストの[「資金調達」・「改善プロセス（見える化）」の観点](#)を特に重視
- 課題抽出し、次年度以降の活動に反映
 - 実証結果確認において、目標に満たない場合は、原因分析し[対応策を検討](#)

分科会での発表資料作成支援や、コーディネーターの現地派遣などを通じて、デジタル拠点地域の進捗管理、伴走支援を行います。

Timeline (Months)

詳細WBS：テーマ3（デジタル）

